

法話

「彼岸」に向き合ってこそ
 阿弥陀様に支えられ育てられ
 池信秀見師
 山口県長門市 極楽寺住職

近頃は「人間、死んだら終わりだ」という人が、多い時代になりました。しかし、私は住職として多くの葬儀をつとめてきましたが、大切な人を失って悲しむ方の面前で「人間、死んだら終わりだから」と言い放つ人を見たことがありません。

何より、日頃は「終わり」と言っているのに、いざ自分の大切な人を亡くした時には大抵こう言われるのです。

「また向こうで会おう」「向こうから、見守っていてくれ」と。

「おいおい、今まで言ってきたことと違うじゃない!」「それって、都合がよすぎるんじゃないの?」とツッコみたくもありません。

でも、考えてみれば、人間は自分の問題として突きつけられなかったら、なかなか真剣に向き合うことはできませんよ。私はたまたま縁あって、住職という立場にあるか

ら考えているだけのこと。そうではなかったらと思うと、とてもツッコむ資格はなさそうです。

ただ、生と死に真摯に向き合い、いのちの行く末を問うていかれた方々の歴史に、敬意を払うことを忘れてはなりません。「彼岸会」とはまさに、そんな人々の歩みが込められた仏事だと、私は思うのです。

「彼岸」とは、文字通り「彼岸」という意味です。私たちが生きていくこの世界を「此岸(このきし)」というのに対し、覚りの世界、阿弥陀さまのお浄土を表わします。

お浄土は「西方浄土」ともいわれますが、実際に、西へ進めばお浄土があるというところではありません。西とは太陽が沈む方向、すなわち、いのちがかえっていく世界を象徴的に表すもの。つまりお浄土とは、阿弥陀さまに抱かれて、私たちがかえっていく世界なのです。

そんな、いのちの行く末である「彼岸」と出遇い、死するいのちである事実を受け容れ、「此岸」を確かに生き抜かれた人々の歴史があることを、この仏事は教えてくださるのです。

昨年末、父である前住職が、お浄土へ往生させていたいただきました。多くの方々のお陰とさまざまなお縁に恵まれ、最後まで自宅で過ごし、家族で看取ることができました。本当に有り難いことだったと思います。

冬休みで帰省していた私の子どもたちも、よく世話をしてくれました。そんな中、子どもたちが明らかに成長していくのが感じられたのです。世話をされる側が、される側から育てられている。意識を失ってまでも、この世のいのちを尽きてまでも、父は孫たちに成長を与えてくれていた。人は、死んで終わるものではないことを、実感させられました。

育てられたのは、私も同様です。人は必ず老い、病み、死んでいかななくてはならないという厳粛な事実を、父は身をもって示してくれました。

身体向きを変えてみるだけでも、人の手を借りなくてもはならない。下の世話もしてもらわなくてはならない。それは歳を重ねた先の、私の姿なのだ。突きつけられたのです。目を背けたくなるような姿だ。という人がいるかもしれませぬ。しかし、そんな厳しい現実を淡々と受け容れ、感謝しながら生き抜く父の姿から、

私は目を背けることはできませんでした。

父はある時、半ば朦朧とした中で「臨終のよし悪しを問わず」とつぶやきました。その言葉には、「どんな私であっても、どんないのちの終わり方であっても、阿弥陀さまは決して見捨てることなく、抱きとってくださる」という確かな安心感がありました。

その時、私は知らされたのです。父が、老いや病いや死をそのままに受け容れられたのは、阿弥陀さまのはたらきに支えられ、育てられたからだということ。確かな依りどころに出遇えた人こそが、人生を確かに歩むことができ。そこにはまた、「彼岸」と向き合ってきた人々の、連続とした歴史をも垣間見ることができました。

老いや病い、そして死を突きつけられる時、自分の本當の姿が知らされます。その時にこそ、本當に頼りにすべき依りどころも明らかになる。「彼岸会」とは、そんな人間の事実と向き合ってきた人々の、連続無窮なる歩みが込められた仏事だったのです。私は今、あらためてそのことを突きつけられています。

教誓寺

法要のお知らせ

暑すぎる日差し・ゲリラ豪雨・足踏みしながら通る台風、お参りの足も遠のき気味になる夏が過ぎてやっとホッと出来る時期になってきました。秋の法要をお知らせします

秋期彼岸会法要

9月22日(日)秋分の日
○法要 午後2時より
ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。

御彼岸の期間は
9月19日(木)〜25日(水)です。

お墓のお花やお参りのご依頼を承ります。



オクラの花

報恩講法要

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご恩に感謝する法要で、浄土真宗門徒にとって最も大切な行事です。本山中で1月16日に「御正忌報恩講」が勤まりますが、末寺ではそれまでにお勤めいたします。最近、報恩講にお参りいただけの方が少なくなり、寂しくなっております。皆様のお参りをお待ちしています。

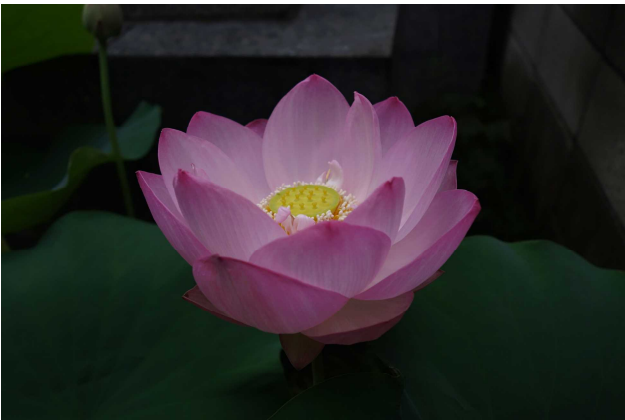
令和6年10月27日(日)

- 法要 午後一時より
- 法話 桜井 大雄 師
- 腹話術
- お参りの時には 門徒式章をご着用下さい。
- 御齋(お食事) 午前11時頃から用意できますので、法要開始より早めにいらして召し上がって下さい。
- お饅頭と来年の浄土真宗カレンダーをお持ち帰りください。

住職より

今年の夏は、気象庁が異常気象と認めるほど暑い夏でした。お彼岸を過ぎれば過ごしやすくなるのではと、期待しています。皆様は、この夏をご無事にお過ごしになられましたでしょうか。真夏に我慢した分、涼しくなってきたらお寺にもお出かけください。

蓮の開花



この数年、春のお彼岸が終わると、蓮の植え替えが

年中行事となっていて、今年まではせっかく育った蓮根だからと、大きめの鉢に2株植えていました。今年には思い切って1株にして、みたところ、勢いが良く、6月中に咲き始め、花は全部で4輪咲きました。また、種を採ることまで出来ました。花の香りも堪能して、満足今年の蓮でした。

教誓寺維持会費について

本年度も維持会費ご納入有り難うございます。これからの方も早めにお願致します。

前号に「維持会費改定」のお知らせを同封致しました。ご意見・ご相談をいつでもお受け致します。なお改定は、来年四月よりですので、御進納は来年度三月に振込票をお送りするまで、今しばらくお待ちください。

浄土真宗本願寺派

圓生山 教誓寺

108-0073

東京都港区三田一丁目十二番地十一

〇三(三四五)一二二九

kyouseiji@jst.sonet.ne.jp